

万葉

Manyoh

罌堂没後60年・相馬雪香7回忌記念フォーラム

秋も深まり、国会議事堂前の銀杏並木が黄金色に輝く中、憲政の神・尾崎行雄の没後60年と三女・相馬雪香7回忌の記念フォーラムが憲政記念館で開催されました。

石田尊昭尾崎記念財団理事事務局長の司会によりスタートしたフォーラムは、今なお引き継がれる尾崎行雄と相馬雪香の意志を再確認し、この2014年11月8日から更なる一步を進める新たな出発点となる会でした。

最初に森山真弓理事長のメッセージが紹介され、続いて尾崎行雄と相馬雪香のDVD上映です。会場の正面左側には大きな相馬雪香先生のパネルが置かれており、常に会の成功を見守ってくださっているようでもあり、しっかりしなさい！と叱咤激励されているようでもありました。このお二人に縁のある団体は全国に多数ありますが、今回は特にNPO法人罌堂香風とNPO法人一冊の会の二団体だけが活動報告の機会をいただきました。大変有り難いことでございます。

NPO法人罌堂香風の主な活動拠点は、尾崎行雄の選挙区・伊勢で、市や県をも巻き込んで多岐に渡る活動をされています。今回は報告として、ケネディ大使が伊勢神宮にハナミズキをお手植えされる様子や、保育園児に一人ひとり手渡しでプレゼントを贈る心温まる映像等が動画で紹介されました。尾崎行雄と相馬雪香の存在と功績を広める為、様々にご尽力されてきた様子が伺えました。



一冊の会の報告は、相馬雪香先生が発起人であるアジア・太平洋女性連盟 (FAWA) に的をしぼり、与えられた15分の中でいかに活動の様子を伝えられるかに相馬先生の後継者である大槻会長がまとめ挑戦しました。尾崎行雄と相馬雪香先生と一冊の会の出会いから今に至るまでを、相馬雪香とFAWA、そして一冊の会へと続く女性リーダーを起点とする友好親善の想いも「万葉」に綴り配布。今年韓国で開催された第21回FAWA

総会は、日本代表として、相馬先生の意志を浸透させるべく戦いながら、どこまでも友好を貫くことに心を砕いた大槻会長の一念により大成功に終わりました。各国の活動を報告するカントリーレポートでは、日本だけが若者を前面に出し、村岡清佳さんと大槻由美さんが英語で発表を務めたことで大きな注目を集めました。2014年度 FAWA は 51 ヶ国 790 名の出席。午前 9 時より午後 9 時までの 4 日間の会議でした。充実した討論会を重ね、誰一人として途中でリタイヤした人はいらっしゃいませんでした。大成功の最終会議、次回シンガポールに向けての任命発表で、大槻明子 FAWA 副会長、小山志賀子 FAWA ボードメンバー（執行理事）に任ぜられたことをこの度、日本の皆様の前でご報告いたしました。フォーラム当日は FAWA メンバーとして、FAWA 日本の事務局長・三坂万里子さん、箱根芳子さん、平間幸江さん、水上鞠子さん、藤沢まり子さん、岸田和江さん、田村洋子さん、村岡清佳さん、田中有里絵さん、瀧川紗智子の 9 名が憲政記念館に集いました。また、4 日間に渡る韓国総会の様子は、村岡清佳さんがまとめて発表してくださいました。

そして、なんと次回 FAWA 開催のシンガポールから、Sara Mai Woo 新会長が今回のフォーラムに特別ゲストとしてお見えになり、スピーチをしてくださいました。相馬雪香先生の意志を FAWA でも受け継ぎ広めていくことを Sara Mai Woo 新会長と共に心に刻んだ、素晴らしい門出の日となりました。



フォーラム終了後に開かれた懇親会での乾杯は、尾崎行雄記念財団理事の原不二子さんです。母・相馬雪香から教えられた物事の見方をお話くださいました。私達一人ひとりに何が出来るのか。尾崎行雄も相馬雪香も、過去よりも今日が大事と考え、そして未来に希望を持つことを大切にされていたと思うのです。尾崎行雄の「人生の本舞台は常に将来にあり」の言葉を胸に、老いも若きも、今を生きる私達が成すべき事は何か、どのような未来を築いてきたいのかを自らに問う日となったのではないのでしょうか。最後に、常に影の裏方で庶務を務めてくださった福井秀樹さん始め、多くの先輩方のご尽力により、無事に一冊の会の報告を終えられましたことを感謝申し上げます。



人生の本舞台は常に将来にあり」の言葉を胸に、老いも若きも、今を生きる私達が成すべき事は何か、どのような未来を築いてきたいのかを自らに問う日となったのではないのでしょうか。最後に、常に影の裏方で庶務を務めてくださった福井秀樹さん始め、多くの先輩方のご尽力により、無事に一冊の会の報告を終えられましたことを感謝申し上げます。

一冊の会 櫻華塾 雪グループ 瀧川紗智子